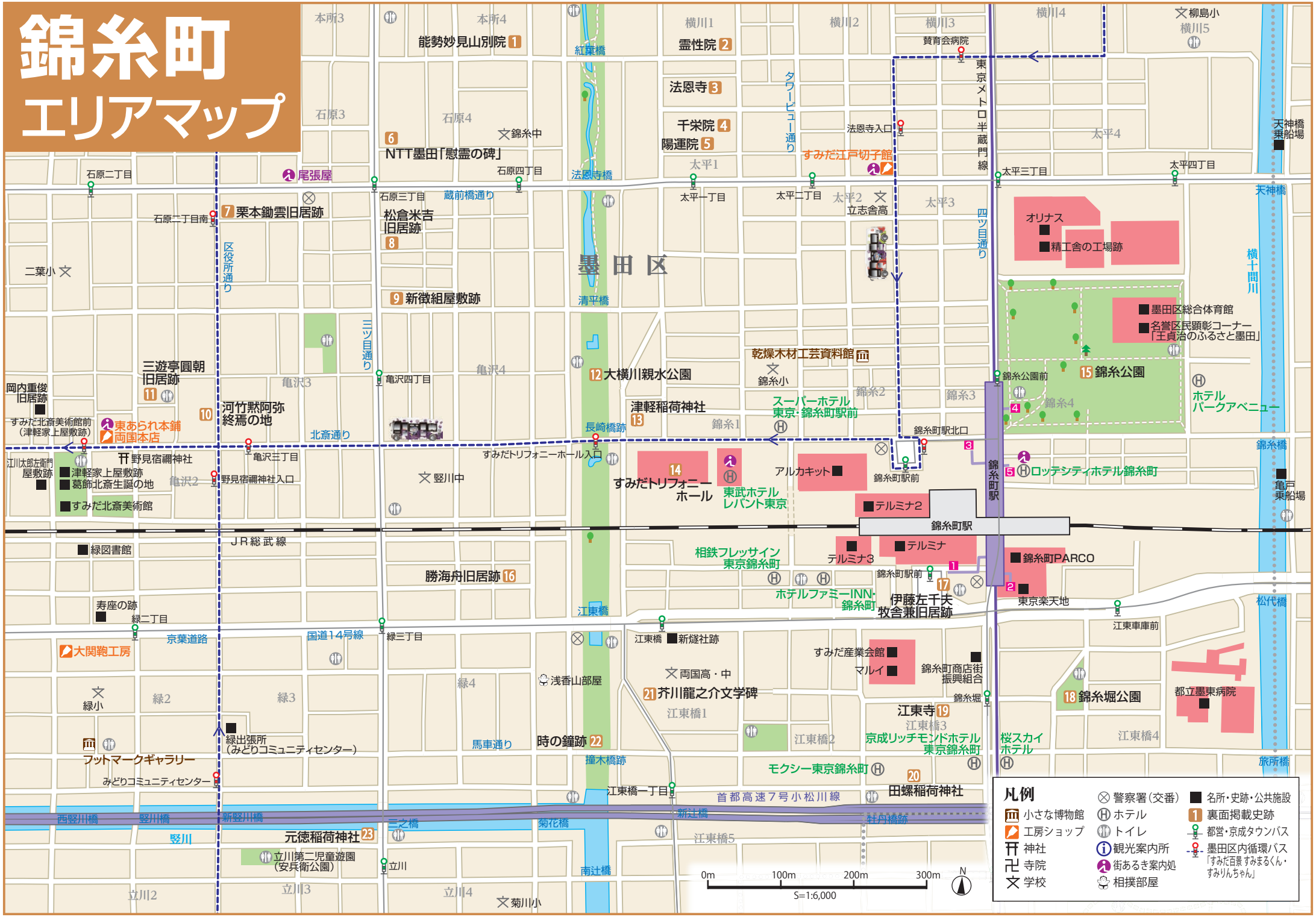
錦糸町 エリアマップ



2023.1 版

錦糸町

散策は、駅南口の伊藤左千夫旧居跡からスタート。次に錦糸堀公園。
そして大横川親水公園を、寺社などをめぐりつつ、北へと歩こう！

1 能勢妙見山別院

安永3(1774)年、旗本の能勢頼次が故郷の能勢宗の妙見大菩薩の分体を下屋敷に祀ったのが始まり。勝小吉も信心した。

2 霊性院

境内の延命子育地蔵尊は、井戸を掘削中に清水とともに掘り出され、この水を含み願えば病が快癒するとされた。

3 法恩寺

太田道灌ゆかりの寺

江戸城築城にあたり、長禄2(1458)年、太田道灌が丑寅の方角である江戸平河（千代田区）に建立したことに始まるとされる。道灌の孫の資高(すけたか)が、父資康(すけやす)の追善のために堂舎を造営、寺名を本住院から平河山法恩寺に改めた。江戸開府後はやむなく数回の移転を重ねて、元禄元（1688）年、現在地に寺地を定めた。

4 千栄院

明応7(1498)年に創建された法恩寺の塔頭で、痰病守護の道晴様と呼ばれる神を祀り、「たんぽとけ霊場」として知られる。

5 陽運院

長享元(1487)年に開創された法恩寺の塔頭。眼病守護の護符を授ける「めぼし霊場」として有名。俳人・水間沾徳の墓がある。

6 NTT墨田「慰霊の碑」

殉職した職員を慰霊

関東大震災で殉職した男子職員2名、東京大空襲で殉職した女子交換手28名、男子職員3名を慰霊する碑。

7 栗本鋤雲旧居跡

幕末は外国奉行として、維新後は有力新聞社の主筆として活躍。明治12(1879)年には本所区初代区議会議長となった。

8 松倉米吉旧居跡

労働をテーマにした作風で知られる歌人・松倉米吉が、23歳で没する最後の2年を暮らした家。

9 新徴組屋敷跡

幕末に幕府の命で江戸市中の取り締まりにあたった浪士隊「新徴組」の組屋敷が置かれた場所で、小笠原加賀守の屋敷跡。

10 河竹黙阿弥終焉の地

狂言作家。明治20（1887）年、72歳で転居し、病没するまで過ごした。「都鳥廓白浪」を始め、多くの名作を残した。

11 三遊亭圓朝旧居跡

落語家の圓朝が明治９(1876)年から11年暮らした場所。この地で塩原太助の一代記を完成させた。

12 大横川親水公園

万治3(1660)年、本所開拓で開削された大横川は汚染などから大半が埋め立てられ、公園となった。毎年2回、ガラス市を開催。

13 津軽稲荷神社

津軽家中屋敷の跡。明治期には糧秣廠が置かれたが、稲荷は残された。震災、戦災で焼失するも昭和35(1960)年に再建。

14 すみだトリフォニーホール

音楽都市すみだの拠点

平成9（1997）年の開館。大小のホールとパイプオルガンを備えたコンサートホール。新日本フィルハーモニー交響楽団の活動本拠地。

15 錦糸公園

明治期に帝国陸軍が兵士の食料を保管する糧秣廠(りょうまつしょう)が置かれた地で、関東大震災後の帝都復興事業により整備された。開園は昭和3(1928)年。

16 勝海舟旧居跡（勝海舟揺籃の地）

旗本の岡野孫一郎の屋敷跡。海舟は9歳から24歳までをこの地所内で過ごした。孫一郎の養女・たみは海舟の妻。

17 伊藤左千夫牧舎兼旧居跡

小説「野菊の墓」で知られる歌人。明治22（1889）年、ここに牧場を開き搾乳業を開始。ゆとりが生まれ、文学に傾倒。

18 錦糸堀公園

本所七不思議の中で、落語の題材として人気があり、有名になった「置いてけ堀」があったとされる場所の一つ。

19 江東寺（江東観音）

錦糸町の観音様

東京楽天地の開発により、昭和15(1940)年、群馬県伊香保町の水沢観音の別院として創建された。

20 田螺稲荷神社

元の名は田中稲荷。大火の際、社の池からタニシがはい出して社殿に張り付き、類焼から守ったという。

21 芥川龍之介文学碑

出身高の敷地内の碑には、龍之介が愛した大川（隅田川）についての19歳の頃の随想の一部が刻まれている。

22 時の鐘跡

江戸時代、人々に時刻を知らせたのが時の鐘で、本所横川にも置かれた。竪川と横川が交差する場所で回りによく響いた。

23 元徳稲荷神社

神田の名主である河村徳右衛門が元禄6(1693)年本所に転居、屋敷神も移す。「元、徳右衛門邸のお稲荷様」が縮まり社名に。

精工舎の工場跡

錦糸公園の北側には、明治26（1893）年に現在の石原１丁目付近より移転した精工舎（現在の㈱セイコーホールディングス）があり、平成9（1997）年の工場閉鎖まで数多くの時計が作られた。セイコーの名は、精巧で精密な時計の生産に成功する工場、「精工舎」に由来。現在、跡地は商業施設「オリナス」となっている。

昭和31(1956)年の精工舎と錦糸公園

新燧社跡（しんすいしゃあと）

すみだミニ情報

日本で初めて赤燐（せきりん）を用いた「安全マッチ」を製造した会社。創始者の清水誠は明治3（1870）年に渡仏し、きわめて難しいとされるマッチの製法を修得。帰国後さらに研究を重ね、同9（1876）年に大久保利通の後援を受けて本所柳原（現在の両国高校付近）で本格的に製造・販売を開始した。両国高校の敷地内には「国産マッチ発祥の地」の記念碑が建てられている。

当時のパッケージデザイン

本所七不思議

江戸時代の本所を舞台にした怪奇談

いくつも生まれた江戸の七不思議。中でも最も広く知られたのが本所七不思議で、草紙や浮世絵、落語などがこぞって題材とし、妖怪話や怪奇談が大好きな江戸っ子の人気を集めた。

本所七不思議としての体裁が整ったのは、寛政年間（1789～1801）と考えられている。ただし内容や構成が異なる伝承もあり、不思議の数は十ほどになる。

どの伝承にも必ず入っている不思議が、堀で釣りをしていると、どこからともなく“おいてけー、おいてけー”と声がして、魚籃（びく）の中の魚が1匹もいなくなるという「置いてけ堀」と、片側にしか葉がつかない芦の由来を語る「片葉の葦（あし）」の二つ。このほか、「狸囃子（たぬきばやし）」「足洗い屋敷」「送り提灯（ぢょうちん）」「消えずの行灯（あんどん）」「送り拍子木（ひょうしぎ）」「落葉なき椎（しい）」「津軽の太鼓」「入江町の時無し」などがある。

「本所七不思議之内 置行堀」(上)、
「本所七不思議之内 片葉ノ芦」(下)／岡多国輝

墨田区ゆかりの人・王貞治

すみだミニ情報

昭和15(1940)年、墨田区八広で生まれ育った王貞治氏。甲子園でノーヒットノーランを達成し、読売巨人軍へ入団。一本足打法を編みだして以来、ホームランを打ち続ける。昭和52（1977）年9月3日に756本の世界新記録を達成し、868本まで記録を伸ばし、世界のホームラン王となる。長嶋茂雄選手とともにＯＮ砲と呼ばれて、一時代を築き、引退後は巨人軍の監督、ダイエー・ソフトバンクホークスの監督を歴任。平成18（2006）年の第1回ワールドベースボール・クラシックでも監督として采配をとり、日本を初代王者に導いた。平成22(2010)年、墨田区の名誉区民となる。

本所中学校の前にある王貞治記念碑

王貞治顕彰コーナー

錦糸公園内にある墨田区総合体育館の2階にある。王貞治氏ゆかりの品々が約30点常設展示され、入場無料で自由に見学することができる。

隅田公園少年野球場

昭和24（1949）年に造られた日本初の少年野球場。こちらは向島エリアにある。墨田区少年野球連盟では、この球場で毎年「王貞治杯」を開催している。

知っ得メモ お菓子の街 錦糸町

JR総武線錦糸町駅の北側付近には、関東大震災後の区画整理で千代田区神田付近の製菓関係者が集団移転し、菓子問屋が軒を連ねた。今では数件を残すのみとなったが、充実した品揃えの駄菓子屋が健在。人気スポットとして親しまれている。

区内を自転車で回ろう！

墨田区 自転車シェアリング&レンタル

https://visit-sumida.jp/event/21224/

墨田区・一般社団法人 墨田区観光協会
TEL：03-6657-5160　FAX：03-6657-5166
Email：sumida@visit-sumida.jp　https://visit-sumida.jp/